

主イイススハリストスの降誕祭聖体礼儀

単音聖歌譜



司祭祈祷

注意 譜面中、五線譜上に  とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞(祈祷文)が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないようにしてください。

2023年12月11日 改訂
釧路ハリストス正教会
管轄司祭ステファン内田圭一

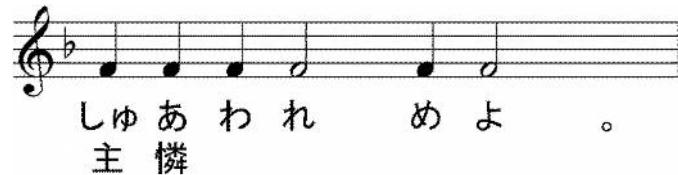
司祭) 黙誦: 天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者
 よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主よ、來りて我等の中に居り、我等を
 もろもろけがれいさぎよしそんしゃわれらたましいすぐたま
 諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救い給え。
 至と高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人に惠は臨めり、至と高き
 には光榮神に歸し、地には平安降り、人に惠は臨めり、
 主よ、我が唇を啓けよ、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす、)

司祭) 父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世世に。



【大聯禱】

司祭) 我等安和にして主に禱らん、



司祭) 上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



司祭) 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



司祭) 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリス

よ ほさいしょく ことごと きょうしゅう およ しゅうじん ため しゅ いの
トスに因る輔祭 職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) わがくに てんのう およ くに つかさど もの ため しゅ いの
我國の天皇、及び國を 司る者の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) こ まち およそ まち ちほう ため およ しん もつ こ うち お もの ため しゅ いの
此の都邑と 凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) きこうじゅんわ ごこくほうじょう てんかたいへい ため しゅ いの
氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) こうかい もの りょこう もの やまい うれ もの かんなん あ もの とりこ もの およ
航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び

かれら すくい ため しゅ いの
彼等の 救の爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) われら もろもろ うれい いかり あやうき まぬが ため しゅ いの
我等 諸の憂愁と忿怒と危難とを 免るが爲に主に禱らん、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

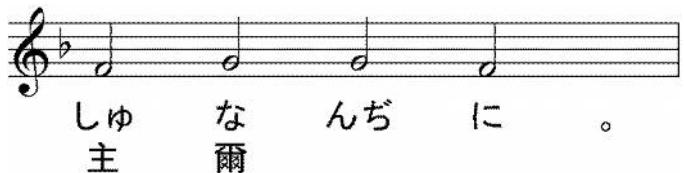
司祭) かみ なんぢ おんちょう もつ われら たす すく あわれ まも
神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

しゅ あわれ め よ。
主 懐

司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんだよ えいていどうぢよ
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しょせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) (黙誦: 主我が神よ、爾の權柄は像り難く、光榮は測り難し、爾の仁慈は限り
なく、仁愛は言い難し、求む主宰よ、爾の慈憐に因りて、親ら我等と此の
せいどう かえり われらおよ われらとも いのもの なんぢ ゆたか おんたく なんぢ
聖堂とを眷み、我等及び我等と偕に禱る者に爾の豊なる恩澤と爾の
あいれん ほどこ たま
愛憐とを施し給え、)

司祭) 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【 第一アンティフォン 】

しゅよ、われこころをまとうしてなんぢをさんえい
主 我 心 全 爾 讀榮
し、なんぢがことごとくのきせきをつたえん。
爾 悉 奇迹 傳
きゆうせ いしゅよ 、しょうしんぢよのきとうによつて
救 世 主 生 神女 祈禱 因
われらをすく いたま あえ。
我 等 救 給
ぎしゃのしゅうぎのうち、およびそのかいのうち
義者 集議 中 及 其 会

においてしゅのしわざはおおいなり。
 於主所爲大

きゅうせ いしゅよ 、しょうしんぢよのきとうに よって
 救世 主 生 神女 祈祷 因

われらをすくいたまあえ。
 我等救 給

よそこれがあいするものためにしとう
 凡之愛者爲慕

べし。

きゅうせ いしゅよ 、しょうしんぢよのきとうに よって
 救世 主 生 神女 祈祷 因

われらをすくいたまあえ。
 我等救 給

そのしわざはこうえいなり、びれいなり、そ
 其所爲光榮

のぎはながくそんす。
 義永存

きゅうせ いしゅよ 、しょうしんぢよのきとうに よって
 救世 主 生 神女 祈祷 因

われらをすくいたまあえ。
 我等救 給

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父 子聖神歸 いつもよよに、アミン。
何時世世 きゅうせいしゅよ、しょうしんぢよのきとうに よって
救世主 生神女 祈祷因
われらをすくいたまあえ。

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ しゅ いの
我等復又安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ。
主憐

司祭) かみ なんぢ おんちょう もつ われら たす すぐ あわれ まも
神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

しゅあわれめよ。
主憐

司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢょさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しょせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく
生命を以て、ハリストス神に委託せん、

しゅなんちに。
主爾

司祭) (黙誦: 主我が神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會の
じゅうまん まも なんぢ どう び あい もの せい なんぢ しんせい ちから
充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を
もつかれら こうえい われらなんぢ たの もの のこ なか
以て彼等を光榮し、我等爾を恃む者を遺す勿れ、)

司祭) 蓋 権柄 及び國と權能と光榮は爾 父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【 第二アンティフォン 】

The musical score consists of eight staves of music, each with a G clef and a key signature of one flat. The lyrics are written in Japanese, corresponding to the staves:

- Staff 1: かみをおそれ、そのいましめをきわめてあい
神 畏 其 誠 極 愛
- Staff 2: するひとはさいわいなり。
人 福
- Staff 3: どうていちよよりうまれしかみのこよ、わ我
童 貞 女 生 神 子 我
- Staff 4: れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等 等 等 等 等 救
- Staff 5: いたまあえ
給
- Staff 6: そのすえはちにちからあり、せいちよくのもの
其 爰 地 力 正 直 者
- Staff 7: のぞくはしゅくふくせられん。
族 祝 福
- Staff 8: どうていちよよりうまれしかみのこよ、わ我
童 貞 女 生 神 子 我
- Staff 9: れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
等 等 等 等 等 救

いたまあえ
 給
 とみとたからとはそのいえにあり、そのぎは
 富財其家
 ながくそんす。
 永存

どうていぢょよりうまれしかみのこよ、わ我
 童貞女生神子
 れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
 等爾歌者救

いたまあえ
 給
 せいちょくのものためにはくらやみの
 正直者爲光闇冥

うちにはくらやみの
 中出彼慈めぐみあ
 うちにいづ、かれはいつくしみありめぐみあ
 惠

りてぎなるものなり。
 義者

どうていぢょよりうまれしかみのこよ、わ我
 童貞女生神子
 れらなんぢにアリルイヤをうたうものをすく
 等爾歌者救



【 神の獨生の子 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父 子聖神歸

いつもよよに、アミン。
何時世世

かみのどくせいのこならびにことばよ、
神獨生子並

しせざるものにしてわれらをすくわんがため
死 者 我等 救

あまんじてせいなるしょうしんぢょ・えいていどうぢょ
甘 聖 生 神女 永 貞 童女

マリヤよりみをとり、かみのせいをかえ
身 取 神 性 易

ずしてひととなりじゅうじかにくぎうたれ、
人 十字架釘

しをもってしをふみやぶりしハリストスかみよ、
死以死踏破 神

せいさんしやのいつとしてちちとせいしんとと
聖三者一 父 聖神共

もにさんえいせらるるのしゅよ、われらをす
讃榮主 我等救



【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ しゅいの
我等復又安和にして主に禱らん、

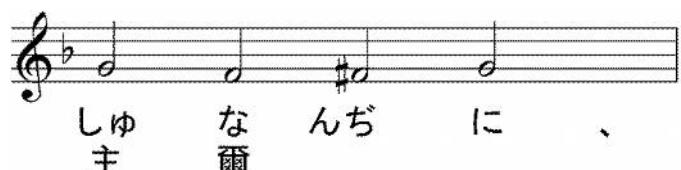


司祭) かみなんぢおんちょうもつわれらたすすくあわれまも
神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) われらここうどうわごうきとうたまかつにさんにんなんぢなよあつもの
(黙誦: 我等に此の公同和合の祈禱を賜い、曾て二三人爾の名に依りて集まる者に

そのもとところたまやくしゅなんぢみづかいまなんぢしょぼくねがいその
も其求むる所を賜うを約せし主よ、爾親ら今も爾が諸僕の願を其

りえきためかなわれらこんせなんぢしんりしらいせえいえん
利益の爲に應わしめて、我等に今世には爾の眞理を識り、來世には永遠の

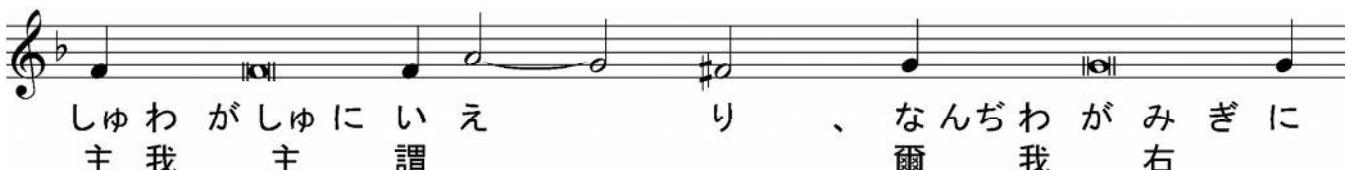
生命を得るを給え、)

司祭) けだしなんぢぜんひとあいかみわれらこうえいなんぢちちこせいしんけんいま
蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も

いつよよ
何時も世世に、



【 第三アンティフォン 】



ざせよ。
 坐
 ハリストスわがかみよ、なんちのこうたんはせか
 我神爾降誕世界
 いにちえのひかりを照らせり、これによ
 智慧光
 りてほしにつとむるものはほしにお
 星勤者星にお
 られて、なんちぎのひをおがあみ、
 爾義日拝
 なんちうえよりのひがしさとれり。
 爾上東
 しゆよ、こうえいはなんちにき歸す。
 主光榮爾
 わがなんちのてきをなんちのあしのだいと
 我爾敵爾足台
 なすにいたれ。
 爲迄
 ハリストスわがかみよ、なんちのこうたんはせか
 我神爾降誕世界
 いにちえのひかりを照らせり、これによ
 智慧光

りてほしにつとむるものはほしにおしえ
 星勤者星に教
 られて、なんぢぎのひをおがあみ、
 爾義日拝
 なんぢうえよりのひがしさとれり。
 爾東覚
 しゆよ、こうえいはなんぢにきす。
 主光榮爾歸
 しゆはシオンよりなんぢがのうりょくのつえをつか
 主爾能力杖遣
 わさん、なんぢはそのてきのうちにしゅたる
 爾其敵中主
 ベシ。

ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
 我神爾降誕世界
 いにちえのひかりを照らせり、これによ
 智慧光
 りてほしにつとむるものはほしにおしえ
 星勤者星に教
 られて、なんぢぎのひをおがあみ、

なんぢうえよりのひがしをされり。
 爾上東
 しゆよ、こうえいはなんぢにきす。
 主光榮爾歸
 なんぢがのうりょくのひにおいて、なんぢの
 爾能力日於
 たみはせいなるびれいをもってそなえられた
 民聖美麗以備
 り。

ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
 我神爾降誕世界
 いにちえのひかりをてらせり、これによ由
 智慧光照
 りてほしにつとむるものはほしにおしえ
 星勤者星
 られて、なんぢぎのひをおがあみ、
 爾義日拝
 なんぢうえよりのひがしをされり。
 爾上東
 しゆよ、こうえいはなんぢにきす。

司祭) (默誦: 主宰・主・我等の神、諸天に天使及び、天使首の品級と軍隊とを立て

なんち こうえい ほうじしや もの もと われら い ともな か われら
 て爾が光榮の奉事者となしし者よ、求む我等の入るに伴いて、彼の我等と
 とも つと とも なんぢ しぜん さんえい せいてんしら い いた たま けだし およ
 僕に務め、共に爾の至善を讚榮する聖天使等の入るを致させ給え、蓋、凡
 こうえいそんきふくはい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ
 そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、)

司祭) えいち つつし た
 睿智、肅みて立て、

【聖入の句】

われしののめのまえにはらよりなんぢをう生
 我黎明前には腹よりなんぢをう生
 めえり、しゅはちかいてくいす。
 主誓悔
 なんぢメルキセデクのはんにしたがいにてしさいと
 爾班循司祭
 なりてよよにいたらん。
 爲世世迄

【降誕祭のトロパリ 第4調】

ハリストスわがかみよ、なんぢのこうたんはせか
 我神爾降誕世界
 いにちえのひかりを照らせり、これによ
 智慧光
 りてほしにつとむるものはほしにお
 星勤者星お
 られて、なんぢぎのひをおがあみ、
 爾義日お

A musical score for 'Nanachi no Higashi' featuring two staves of music with lyrics in Japanese. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat, and a tempo marking of 100 BPM. The lyrics are: 'なんちうえよりのひがしをされり。爾上東覚' (Nanachi no Higashi). The second staff continues with the same key signature and tempo, and the lyrics are: 'しゆよ、こうえいはなんちにきす。主光榮爾歸' (Shuyou, koueいはnanchiにkisus). The music consists of quarter notes and half notes on a standard five-line staff.

【 降誕祭のコンダク 第3調 】

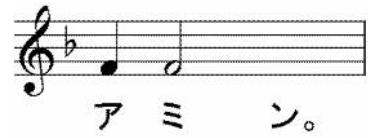
こ うえいはちちとことせいしんにき歸す、い今
 光榮父子聖神歸す、い今
 まもい つも よよ にい、アミン。
 いまどうていぢょはえいざいのしゅをうみ、
 今童貞女永在主生み、
 ちはのせがたきものにほらをけえんず、
 地載難者洞獻えんず、
 てんのつかいはぼくしゃとともにほめうたい、
 天使牧者偕讃うた歌、
 はかせはほしにしたがいてたびす、けだ
 博士星従旅びす、けだ
 しわれらのためにえいきゅうのかみはみど
 我等爲にえ永久か神みど
 りご兒としてうまれたまえり。

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃美せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と

ひと なんぢ ぞう しょう よ つくり なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す そのすくい ため つうかい
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの
 る祭壇の光榮の前に立て、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
 しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい しょう
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
 しんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ
 神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人ととの祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋 我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も、世世
 に、



【 聖三祝文に代えて 】

ハリストスにおいてえせんをうけしものハリストスを
 於洗受者

きたあり、アリルイヤ、ハリストスにおい
 衣

てえせんをうけしものハリストスをきたあり、
 洗受者

アリルイヤ、ハリストスにおいてえせんをう
 於洗受

けしものハリストスをきたあり、アリル
 衣

イ ヤ、こ うえいは ち ちとこ とせ いしんに き 归
 す、いまもいつもよよに、アミン。ハリストスをきたあり、アリルイ ヤ。ハリストスにお於
 いてえせんをうけしもとのハリストスをきたあ衣
 り、アリルイ ヤ。

司祭) (黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讚めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讚めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン
提綱 第4調 】

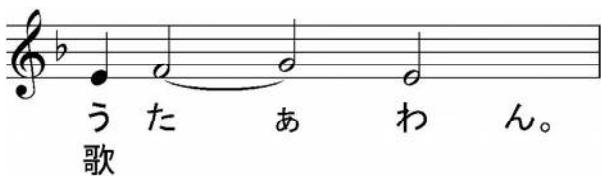
司祭) つつしきゅうじんへいあん
 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢしん
 爾の神にも、

司祭) えいち
 睿智、

誦經) プロキメン、至 上 者よ、願わくは全地は爾に叩拜し、爾を歌い、爾の名に歌わ
 ん、

し じょうしゃよ、ねがわくはぜんちはなんぢにこ うは
 至 上 者 願 全 地 爾 叩 拜
 いし、なんぢをうたい、なんぢのなに
 爾 歌 名



誦經) 全地よ、神に歓びて呼び、其名の光榮を歌い、光榮と讚美とを彼に歸せよ、

しじょうしゃよ、ねがわくはぜんちはなんぢにこうは拜
至上者願全地爾叩拜

いし、なんぢをうたい、なんぢのなに
爾歌爾名

うたあわん。

誦經) 至上者よ、願わくは全地は爾に叩拜し、

なんぢをうたい、なんぢのなにうたあわん。
爾歌爾名

【アポストロス
使徒經 209 端 ガラティヤ書4章4~7節】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴエルがガラティヤ人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、期満つるに至りて、神は其子を遣し、彼は女より生れ、律法下の者とな

れり、律法下の者を贖い、我等をして子たるを得しめん爲なり。且爾等子たるに由りて、

神は爾等の心に其子の神、「アッヴァ」父を呼ぶ者を遣わせり。故に爾既に僕なら

ず、乃子なり、若し子ならば、イイススハリストスに由りて神の嗣なり。

* * * * *

(比較用 口語訳) しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「ア

バ、父よ」と呼ぶ御子の靈を送って下さったのである。したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。

【アリルイヤ 第1調】

司祭) なんぢ へいあん
爾に平安、

誦經) なんぢ しん
爾の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) アリルイヤ、



アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) しょてん かみ こうえい つた おおぞら そのて しわざ つ
諸天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作爲を誇ぐ、



アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) ひひことばのよよちほどこ
日は日に言を宣べ、夜は夜に智を施す、



アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

司祭) (黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し
人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思

ねんめひら なんぢふくいん おしえ さと たま わうち なんぢふく いましめ
念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠

おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふみ、およ なんぢ よろこぶ
 を畏るる 畏をも入れて、我等が 悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ
 ところ おもか おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ
 所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神
 なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいし
 よ、爾は我が 靈と體との光耀なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至
 善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【エヴァンゲリオン
福音經 マトフェイ福音書3端 2章1~12節】

司祭) えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん
 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭) マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) つつし き おう とき うま み はか
 謹みて聽くべし、イイススはイロド王の時イウデヤのヴィフレエムに生れしに、視よ、博
 せすにんひがし きた いわ うま じん おう いづこ あ けだし
 士數人 東 よりイエルサリムに來りて曰く、生れたるイウデヤ人の王は何處に在るか、蓋

われらそのほし ひがし み かれ はい ため きた おうこれ き ここさわ
 我等其星を東に見たれば、彼を拜せん爲に來れり。イロド王之を聞きて心騒げり、

こそ またしか すなわちおよそ しさいちょう みんかん がくし あつ かれら と
 イエルサリム舉りて亦然り。乃凡の司祭長と民間の學士とを集めて、彼等に問え

いづこ うま かれらい おい けだしよげん
 り、ハリストスは何處に生るべきか。彼等曰えり、イウデヤのヴィフレエムに於てす、蓋預言

しゃ よ か しる いわ ち なんぢ しょぐん うち おい
 者に因りて斯く録されたり、云く、イウダの地ヴィフレエムよ、爾はイウダの諸郡の中に於

いささか ちいさ けだしなんぢ わ たみ ぼく きみ い ここ
 て 聊も小しとせず、蓋爾より我が民イズライリを牧せんとする君は出でんと。是に

おい ひそか はかせ め つまびらか ほし あらわ とき と かれら つかわ
 於てイロド密に博士を召し、詳に星の現れし時を問い合わせ、彼等をヴィフレエムに遣

い ゆ つぶさ おさなご こと たづ これ あ われ つ われ ゆ かれ はい
 して曰えり、往きて、細に嬰兒の事を尋ね、之に遇わば、我に告げよ、我も往きて彼を拜

ため かれらおう き ゆ み かつ ひがし み ほし かれら さき ゆ つい
 せん爲なり。彼等王に聞きて往けり、視よ、嘗て東に見たる星は彼等に先だちて行き、遂

おさなご あ ところ いた そのうえ とどま かれらほし み よろこび た すなわちいえ
に嬰兒の在る所に至りて、其上に止れり。彼等星を見て喜に勝えざりき。乃家
い おさなご そのはは とも あ み ふふく かれ はい そのたからばこ ひら これ
に入りて、嬰兒の其母マリヤと偕に在るを見、俯伏して彼を拜し其寶盒を啓きて、之
れいもつ けん すなわちおうごん にゅうこう もつやく すで ゆめ うち かえ
に禮物を獻じたり、即黃金、乳香、沒藥なり。既にして夢の中に、イロドに返る
べ つげ え た みち そのほんち かえ
可からずとの黙示を得て、他の途より其本地に歸れり。

(比較用 口語訳) イエスがヘロデ王の代に、ユダヤのベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拜みにきました」。ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。そこで王は祭司長たちと民の律法学者たちとを全部集めて、キリストはどこに生れるのかと、彼らに聞いた。彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしるしています、『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう』」。そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、星の現れた時について詳しく聞き、彼らをベツレヘムにつかわして言った、「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拜みに行くから」。彼らは王の言うことを聞いて出かけようと、見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拜み、また、宝の箱を開けて、黄金・乳香・没薑などの贈り物をささげた。そして、夢でヘロデのところに帰るなどのみ告げを受けたので、他の道をとおって自分の国へ帰って行った。

A musical score for 'Kōei no Shūyō'. The top staff shows lyrics in Japanese: 'しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい榮'. Below it, the lyrics '主光榮爾' are written under the notes. The bottom staff continues the lyrics: 'はなんぢにき歸す。爾'.

※聖体礼儀③（金口イオアン）へ